

三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2010. 5.17

No.1953
No.36



| | |
|---------------|---|
| 出席率 | 会員54名中39名 |
| 先々週の出席率 | 85.11% |
| 先週の メイクアップ | 5/13 三条東RCへ 長谷川晴生君 飯山勝義君 丸田肇一君 野島廣一郎君 佐々木常行君 |
| | 5/14 地区表彰審議委員会(柏崎)へ 野崎正明君 |
| | 5/16 水原RC創立50周年記念式典へ 馬場信彦君 佐藤嘉男君 |



会長挨拶

三条南ロータリークラブ 会長
佐藤 嘉男

挨拶をさせていただきます。

今日の産経新聞の一面に、「日本の約4,000万人いるとされる高血圧患者の方々、5月17日、今日は『高血圧の日』です。生命に関わる病気を引き起こす高血圧。『高血圧の日』である今日を機に、病気に立ち向かうための健康的な毎日を過ごしましょう」とありました。私も含め健康的な毎日を目指して生活しましょう。

先週の挨拶で途中になっていました「地区クラブ活性化セミナー」の資料のアンケート結果について話をさせていただきます。

■ 入会3年未満の人たちのその他の意見として

- Ⅰ. もっと地元新潟のために貢献するべき
- Ⅰ. 毎週の例会があまりにも形式化し過ぎている、懇談会的な方が良いと思う

また、ロータリーのイメージで、入会前と後でギャップは？

- Ⅰ. もっと堅苦しい組織とっていました
- Ⅰ. 暗い会のイメージがあったが、大変明るい
- Ⅰ. 「お金持ちの集り」のイメージ通りだった
- Ⅰ. 入会后、財団や米山奨学など寄付金が多く戸惑っている
- Ⅰ. もっと格式高いものと思っていたが、和やかな雰囲気である
- Ⅰ. 個人、プライドの強いロータリークラブとと思っていましたが、奉仕の精神及び仲間意識の強い素晴らしいクラブでした

■ 入会3~10年未満では

- Ⅰ. 年会費が高いと思う。また、その他寄付金が多いため新人の勧誘の際支障になる
- Ⅰ. 各クラブ中心で横との交流が少ない
- Ⅰ. 社会奉仕活動などはクラブ単位より地区単位で作ったほうがより大きい効果があると思います

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

- Ⅰ 真実かどうか
- Ⅱ みんなに公平か
- Ⅲ 好意と友情を深めるか
- Ⅳ みんなのためになるか どうか



国際ロータリー会長 ジョン・ケニー [スコットランド]
第2560地区ガバナー 植木 康之 [柏崎]
第4分区AG 米山 忠俊 [三条北]
会 長 佐藤 嘉男
幹 事 荒澤 威彦
S A A 熊 倉 高 志

事務局 〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三条信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

- l. 大会などいくつかあるが、何とか可もなく、不可もなく最優先でチャレンジが見当たらない
- l. 会の運営、具体的な活動が形式的に終わり、ボランティアの真の活動になっていない。お金を寄付することがロータリーの真の活動ではない。一部である。もう一度会のあり方を考え直すことが必要と思う
- 入会 10~20 年未満では
 - l. 会費が高い
 - l. 複数クラブとの合併統合を検討しても良い時期だ
(団塊の世代が還暦を過ぎた今、世代別人口構成を見る限り、会員増強は物理的に難しい)
 - l. ロータリークラブの目的、存在は変わらないが、時代の変化に対応してゆかなければならない。過去を見ながら前へ進んでではない。過去は過去として明日に向かって行動すべき。また、個々のロータリークラブが主役であり、RI や地区の方が「偉い」は違う
 - l. 継続は力なり、楽しいクラブを続けていきたい
 - l. いろんな業種の人々の増強を計り、新しい会員の意見、感覚でクラブ運営してほしい
- 入会 20 年以上では
 - l. 近隣クラブとの共催事業等を行い、少しでも大きな地域住民のお役に立つことを行う。マンネリ化しているのではないか!
 - l. 事業をより簡素化し、スリム経営をロータリー全体が見直す時期と思う。会費も安くなり、増強には効果的と考えるから。
 - l. 第 2560 地区はクラブ数はこれ以上必要とは思いません。それより、各クラブ充実して魅力あるロータリークラブになりたいですね
 - l. クラブ数ばかりでなく、クラブの合併も考慮する必要があるのではないか
 - l. 近年、出席率等厳格さを失っている
 - l. 地元の経済状況がこのまま続くようだと会員を確保し続けるのは、大変なことだと思っています。小クラブの統合・合併も考えた方が良い時代かと思えます。
 - l. 当クラブの将来はそう悲観的ではない。ロータリー活動に熱心な若い人が多く展望は明るい
 - l. 不況の中にあっても先は決して楽観できない。これ以上の退会を是非止めたい。しかし、内容を充実すれば将来は明るいものと信じる
 - l. 会員増強のみにあまり強制せず、クラブの運営内容の充実を計ること。気長にのんびりロータリーライフ楽しめるように考えていた方が良くと思う。
 - l. 我がクラブの今のままが一番良いと思う。素晴らしいクラブです

幹事報告

荒澤 威彦 幹事

植木ガバナー事務所より「6月ロータリーレート」のご案内

6月1日より 現行どおり 1ドル = 92円

地区青少年交換委員会より 2011~2012 年度一年交換学生募集要項 ご案内

- ①派遣先 アメリカ ドイツ ブラジル タイ 他
- ②資格
 - ・15~19 歳の出発時高校在学中の者
 - ・来日一年交換学生の受入れ家庭となり得る
 - ・心身ともに健康で一年の外国生活に適応でき得る者
- ③申込み
 - ・留学の希望について両親、通学高校の校長の了解を得た上で申込書を請求、10 月末申請締切
 - ・11 月中旬選考試験予定
- ④派遣時期 2011 年 8 月下旬出発、受入れ

ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

~ 5月17日 9,000円
今年度累計 612,000円~

佐藤(嘉)君 12日に娘が2人目の子供、女の子を産み、14日初めて孫の顔を見てきました。爺バカでしょうが、やはりかわいかったです。

荒澤君 渡邊さん、本日卓話宜しくお願ひします。

坪井君 爽やかな5月らしい天気が続きます。身体も心もこの様に爽やかだと良いのですが...

渡邊(久)君 渡邊光郎さんの卓話、期待しています。

鈴木(囿)君 天候に恵まれ「三条祭」無事終わりました。卓話の渡邊さん、ご苦労様です。

齋藤君 渡邊さん、卓話期待しています。

平松君 渡邊さん、卓話ご苦労様です。

若井君 渡邊さん、卓話ががんばって下さい。

松崎君 昨日はハヤシ方で三条祭りに参加しました。渡邊さん、卓話楽しみにしていました。

「相撲の歴史と品格」

渡邊 光郎 会員



■ 相撲の起源について

相撲の起源は非常に古く、もともとは稲の豊作を祈る神事と考えられ、健康で力のある男たちが神前で、その力を捧げる行為でした。神々の前で自らの力を見せるため、まわし以外を身につけず、神々に対する敬意を示す、礼儀作法が特に重視されたと云われています。古墳時代の埴輪、須恵器、土偶には相撲を取っている様子をした飾りが付いていて、当時の相撲の様子を知ることができます。

古い記録の中に相撲を探してみると、日本最古の歴史書である「古事記」(712年)には建御名方神たけみなかたのかみと建御雷神たけみかづみのかみというふたりの神が力比べをして相撲をとり、建御名方神が建御雷神の腕をつかんで投げ倒したと書かれています。また「日本書紀」では、垂仁天皇七年(紀元前23年)の7月7日に、野見宿禰のみのすくねと当麻蹶速たいまのげはやが相撲をとり蹶速が死んだと

載っています。このときの勝者、野見宿禰は相撲の始祖として崇められました。東京・墨田区にある野見宿禰神社には、昇進した新しい横綱がここで土俵入りを披露することになっています。

■ 天皇家と相撲

国家の豊作を祈る神事でもあった相撲は、日本固有の宗教である神道と結びつき、神道の司祭者である天皇家は深く関わっていきました。古事記にもあるように相撲の歴史は長く、「日本書紀」では、宮廷で客をもてなす余興として兵士に相撲を取らせたとも記録されています。平安時代になってからは天皇の前で行う天覧相撲が年中行事として開かれました。いわゆる「相撲節会すまひのせちえ」として宮中の重要な儀礼のひとつになっていったのです。その後、宮中の恒例行事として相撲のルールともいえる制度諸式も整えられ、相撲節という独立した儀式まで発展していきました。

*大相撲では、幕内優勝した力士に天皇賜盃が贈られます。この天皇賜盃は歴史上からも深い意味があります。昭和天皇が摂政宮だった大正14年4月29日、赤坂東宮御所で台覧相撲が行われ、その労に対して宮内庁から相撲協会に御下賜金(金一封)が下されました。これを有意義に使うために相撲協会では優勝盃を作ることに決めました。翌15年1月場所から登場して、最初の拝載者は常ノ花つねのはなです。当初は摂政殿下賜盃と呼ばれていましたが、昭和2年5月場所から賜盃と改められ現代に至っています。

■ 大相撲の誕生

力自慢の男たちから始まった相撲も平安時代の頃は宮中行事のひとつとして組み込まれていましたが、政治の中心が天皇・公家の朝廷から武家に移った鎌倉時代になって、余興的色彩の濃かった相撲節は衰退して、戦場で実戦的な組み打ちや日常の心身の鍛錬のための相撲が次第に奨励されてきました。

源頼朝は大変相撲好きで、御家人たちに相撲を取るように奨めたそうです。室町時代になると庶民の間でも単純な遊びとしての相撲が広がりました。そして織田信長も大変相撲が好きであった様です。土俵の原形を作ったのは信長であるとも言われています。

江戸時代の初期には、お金を取って興行としての相撲を見せるようになりました。これは戦国の乱世から平和な世の中になり、あぶれた浪人たちが私的に興行していたものです。のちに江戸幕府によって「辻相撲禁止令」が出されました。貞享元年(1684年)に、雷権太夫ほか14名が幕府に願い出て、相撲団体をつくり組織的に行うことを条件に相撲興行の公認を得ることができました。これが観客に見せる興行としての大相撲の始まりであると云われます。

初期の大相撲は土俵がなく、見物人が7~9mほどの大きさの輪をつくって、その中で相撲が行われました。現在のように丸い土俵ができあがるのは17世紀後半のことですが、土俵の四隅に神を祀る柱を立て、その上に屋根を置いた「方屋かたや」というかたちになり、土俵も直径約4mの円形になりました。

18世紀になり、土俵の円をつくる五斗俵を半分地中に埋めたスタイルになり、その円の外側にも俵で円をつかった「二重土俵」(蛇の目土俵または三六俵とも言われる)になりました。この形式は昭和の初めまで正式な土俵でした。

現在の土俵の形は昭和6年(1931年)に決められ、大きさは直径15尺(約4メートル55センチ)となりました。その他土俵は相撲独自の規則があり、使用する俵の数は全部で66俵、それぞれ使う場所に割り振られ(円の部分が16個に徳俵の4つ。土俵の四辺を囲むように28個、四隅の角に4個。踏み俵で10個。水桶俵で4個です)、土俵上では俵の60%を土の中に埋めて、40%を土の上に出すのが決まりとなっています。

■ 明治維新と大相撲の危機

明治維新のとき、大相撲は危機を迎えます。明治維新によって、日本は進んだ欧米の技術や考え方を取り入れる一方で、旧いしきたりや習慣を野蛮なものとして禁止し廃止していきました。東京府では明治4年に「裸体禁止令」が出され、これにより、まわし一つの力士がふんどし姿の車夫や飛脚などと同じ醜態のものに見なされ相撲無用論が発生、しまいには相撲禁止論が出てくるようになりました。

そんな世の中であって、明治17年(1884年)3月10日に東京相撲が明治天皇の御前で天覧相撲を行い、相撲禁止論を一掃、往年の人気を取り戻すことに成功しました。これは、相撲が好きだった明治天皇が伊藤博文に働きかけて行われたもので、その天覧相撲の様子は当時の新聞が大きく報道したり、錦絵も数多く出されたりしました。この天覧相撲によりそれまで単なる見世物であった相撲が格調高いスポーツと認識されるようになりました。戦後のプロ野球天覧試合と同じ効果をもっていたと思います。

■ 国技館の完成

明治42年5月に相撲協会悲願の常設相撲場である旧両国国技館が完成しました。

これは当時としては東洋一の建築物でありました。(鉄筋でつくられた円形の建物で、ドーム型の屋根を持ち、屋根の高さは70尺(約21m、ドームの頂点は高さ97尺(約29m))、直径197尺(約60m)の大きさで、定員は一階席5,000人、二階席2,000人、三階席3,000人、四階席が3,000人で合計13,000人も入るとてつもない大きさだったことが伺えます。

相撲常設館としての両国国技館が造られた目的は、

- *ひとつに外国人が見に来てくも恥ずかしくない立派な相撲場をつくること
- *ひとつに相撲道の改革

でした。これには好角家であった板垣退助が関わっていました。板垣退助は常設館設立委員長の立場で、土俵のルール、力士が取組を行う際のルール、行司と勝負検査役が判定を下す際のルールなど。この他行司や力士の服装や番付方法、相撲関係者や観客のマナーに関するルールを改革しようとした。

このときのルール変更では、東西で優勝を争うシステムが導入されました。東西の幕内力士の団体戦で、それぞれの力士が10日間の場所を通じて勝った星を合計し、多い陣営を勝ちとして、優勝旗を授与するものです。このシステムにより幕内力士は10日間フル出場することになり、力士の闘争心も高揚し、連日大入り、千秋楽は優勝旗授与式と、その後の優勝パレードによって魅力的なものになったようです。

■ 日本の国技となった相撲

国技館の名称は当初「相撲常設館」とされていたのですが、作家の江見水蔭^{えみすいゐん}が起草した常設館落成の披露文に「そもそも相撲は日本の国技」という言葉があり、これにヒントを得た当時の協会役員尾車文五郎^{おぐるまぶんごろう}(元大関・^{おおとひら}大戸平)の発案で「国技館」と決定しました。これにより相撲は国技であるというイメージが人々に広まっていったと考えられます。

当時は聞き慣れない「国技館」という言葉であったようですがその響きの良さから次第に定着し、以後、全国に国技館という名の付いた相撲場が続々と誕生しました。各地に国技館ができるようになると、「相撲は国技」「相撲が唯一の国技」という認識が日本人に出始め広まり、この影響で、柔道や剣道は国技になり得ず、柔道・剣道は武道、相撲は国技ということになったようです。

■ 昭和時代の大相撲ブーム

(初場所、夏場所の年2場所開催しかなかった)昭和11年から14年にかけて69連勝を記録した第35代横綱・双葉山の活躍により大相撲ブームがおこり、昭和12年(1937年)5月場所から興行日数が13日間となりました。しかし戦争の影響が出始め、両国国技館が陸軍に接收され、東京大空襲により国技館は焼失してしまいました。

昭和20年代後半になって、蔵前国技館、大阪府立体育館が完成し、年4回(1、3、5、9月)の興行ができるようになりました。昭和30年代に入ると、第44代横綱・栃錦と第45代横綱・初代の若乃花の登場で「栃若時代」が到来し、昭和32年(1957年)には11月場所(九州場所)、昭和33年(1958年)に7月場所(名古屋場所)が加わり、現在のような年間6場所、15日間開催のスタイルになりました。

その後60年代には、第47代、第48代の両横綱・柏戸、大鵬の「柏鵬時代」が生まれ、第54代、第55代横綱の北の湖、輪島の「輪湖時代」、第58代横綱・千代の富士が通算勝ち星1045勝と記録を残し、昭和の大横綱が続々と誕生しました。

平成になり兄弟横綱の若貴ブーム(若乃花、貴乃花)が巻き起こり大相撲は若い世代の心を捉え、平成の人気スポーツとなりました。しかし平成15年の貴乃花の引退以降日本人の横綱が出ていないことはなんとも寂しいかぎりです。もちろん平成の横綱・朝青龍も大相撲に貢献した一人として忘れられません。

■ 横綱の歴史

横綱は横綱免許として力士に付与されるものとして生まれました。寛政元年(1789年)11月、江戸相撲の行事の総元締めであった吉田司家^{つかさけ}が第4代横綱・谷風梶之助^{たにかぜ かじのすけ}と第5代横綱・小野川喜三郎^{おのがわ きさぶろう}に横綱を授与したの

が、横綱免許の始めとされています。

横綱という言葉の歴史を紐解くと、その語源は、横綱だけが腰に締めることを許される白い布で編んだ太いしめ飾りの縄からきています。しめ縄である綱を締めた横綱は神として崇められる存在となり、神聖な現人神あらひとがみとされます。(横綱の綱は神棚に飾るしめ縄を意味している)

現在の横綱は大相撲力士の格付けにおける最高位です。しかし、大関が最上位の地位であった時代がありました。その時代、横綱という言葉はありましたが大関の中で品格・力量・技の最も優れた力士を指していたもので、階級ではありませんでした。

明治 23 年(1890 年)に西ノ海が横綱として初めて番付表に記載され、明治 42 年(1909 年)の相撲規約改正で横綱は最高位として明文化されました。

現在の相撲でも、横綱には品格、力量、技の優れていることが求められ、横綱審議委員会の横綱推薦基準である次の 3 条件を満たした力士が横綱になることができます。

- 1) 品格、力量が抜群であること
- 2) 大関で 2 場所連続優勝した力士を推薦することを原則とする
- 3) 2 場所連続優勝に準ずる好成績を上げた力士を推薦することができる

いずれも横綱審議委員会の出席委員の 3 分の 2 以上の多数決によって決議されています。

■ 大相撲の品格とは

「礼に始まり 礼に終わる」

この言葉は元々、相撲の言葉であるといわれていますが、今日では相撲をはじめ柔道・剣道などの武道や芸の道でもつかわれる言葉になりました。礼は土俵上の作法だけでなく、土俵を離れても、力士としての礼儀や礼節を持たなくてはならないことこそが、礼そのものであるとしています。相撲の歴史は神との関わりも深く、相撲の動き一つひとつが神事の表現になっているので、力士の所作それぞれに意味があります。

相撲道とは勝ち負けだけにこだわるのではなく人間を磨くこと、厳しい稽古を積んで、力士である前にひとりの人間として「心・技・体」を磨き心身ともに鍛える事が重要であります。

そして第 48 代横綱・大鵬の言う品格とは、誠実、正義感、責任感、節制、判断力、決断力、友情、忍耐、持続力、人としてのやさしさ・思いやり、弱い者をいたわる、利益を追求しない、とされています。

◆ 横綱の不祥事

・第 39 代横綱・前田山

昭和 24 年 10 月の大阪場所を大腸炎を理由に休場し帰京した際、来日していた野球の 3A サンフランシスコ・シールズと巨人の試合を後楽園球場で観戦。シールズのオドール監督と握手する写真が新聞に掲載された。横綱として不謹慎であるとの批判を浴び、責任を取る形で引退に追い込まれた。

・第 47 代横綱・柏戸、第 48 代横綱・大鵬、第 52 代横綱・北の富士

昭和 40 年(1965 年)5 月、大鵬、柏戸や北の富士らが拳銃を巡業先のアメリカ合衆国から密輸入していた事が発覚し書類送検されたが、相撲協会からの処分は譴責処分にとどまった

・第 54 代横綱・輪島

第 54 代横綱輪島は、昭和 56 年春場所限りで引退して花籠部屋を継承したが、昭和 60 年 2 月に年寄名跡「花籠」を担保に借金していたことが発覚。その後も当時の妻が自殺未遂を図るなどトラブルが続き、同年末に相撲協会を退職した。

・第 60 代横綱・双羽黒

昭和 62 年 12 月 27 日、師匠の立浪親方(元関脇羽黒山)との口論が大げんかへと発展。おかみさんや後援会関係者にも暴行して部屋を脱走した。相撲協会は大みそかに臨時理事会を開いて双羽黒の廃業を決議。双羽黒も会見して引退を発表した。

・第 68 代横綱・朝青龍

巡業を休んで無断帰国したモンゴルでサッカーをしていた。日本相撲協会は 2 場所出場停止処分を発表。また平成 22 年 1 月、初場所中にもかかわらず、泥酔して知人男性に暴力をふるったとされ、初場所後責任を取って引退した。

* 特に朝青龍の引退は記憶に新しいがこの横綱ほど横綱の品格について話題になったのも珍しい。力士として輝かしい実績を残しながらまだ足りない何かがあったとすれば「心」「民族の違い」でしょうか。

今場所(夏場所)が始まり昨日で中日(8 日目)を迎えたが、やはり上位には外国勢が頑張っている。

二場所連続優勝狙う横綱・白鵬、新大関として優勝狙う・把瑠都、そして欧州第 3 の男、栃ノ心などのやはり外国勢が頑張っている。日本勢では注目の大関・魁皇が史上 2 人目となる 1000 勝達成に期待しています。

また今場所調子が良い新潟出身の霜鳥には頑張っ欲しいと思います。

それにしても最近のシコ名の通り外国人の力士が多いこと、そして強いことです。相撲協会も日本人力士の育成にもっと力をいれて一日でも早い日本人横綱の誕生に期待しながら、これからも応援したいと思います。

2010 6月



June

| Sunday | Monday | Tuesday | Wednesday | Thursday | Friday | Saturday |
|---|---|--|--|---|--------|---|
| | 5/31 ◆南RC クラブ休会 | 6/1 ◆北RC 「家庭会合 報告会」 | 2 ◆三条RC 卓話 三条雲蝶会 角田 道雄 様 | 3 ◆東RC クラブ・ フォーラム | 4 | 5 2010～11 年度 第4 分区 会長・幹事会 17:30～ 於:ロイヤル |
| 6 糸魚川中央 RC30周年 記念式典 於: ホテル糸魚川 9:00 ロイヤル 集合・出発 | 7 ◆南RC 卓話 パストガバナー 中條 耕二 様 「ロータリー発祥の 地シカゴで開催 の規定審議会 に出席して」 | 8 ◆北RC クラブ休会 ※記帳できます | 9 ◆三条RC 「地区協議会 報告」 | 10 ◆東RC 会員卓話 | 11 | 12 豊栄RC 40周年 記念式典 於:新潟市 北区文化会館 11:30 ロイヤル 集合・出発 |
| 13 | 14 ◆南RC クラブ・ フォーラム ◇南RC 「IM 正副実行 委員長会議」 18:30～ 於:松木屋 | 15 ◆北RC 職場例会 於: さわたりの郷 ※記帳できます | 16 ◆三条RC 卓話 西山徳芳会員 | 17 ◆東RC 「今年度を 振り返って」 中澤 進会長 | 18 | 19 |
| 20 | 21 ◆南RC クラブ・ フォーラム | 22 ◆北RC 「今年度を 振り返って」 石川勝行会長 | 23 ◆三条RC クラブ・ フォーラム | 24 ◆東RC 「会長・幹事 慰労会」 ※記帳できます | 25 | 26 |
| 27 | 28 ◆南RC 「会長・幹事 慰労会」 18:30～ 於:松木屋 | 29 ◆北RC 「会長・幹事 慰労会」 ※記帳できます | 30 ◆三条RC 「会長・幹事 慰労会」 ※記帳できます | | | |

*近隣RC例会変更のお知らせ

- 燕 RC 6月10日(木) クラブ休会 24日(木) 新旧交替慰労会
- 加茂RC 17日(木) 感謝の夕べ
- 分水RC 22日(火) 新旧交替慰労会
- 吉田RC 25日(金) 新旧交替慰労会

記帳場所

ワシントンホテル
加茂市産業会館
だいえいビジネスサービス
山岸会計事務所

表紙について

速水 御舟 (はやみ ぎょしゅう)
東京都出身(1894-1935)
■「牡丹花(墨牡丹)」1934年(昭和9)作
山種美術館蔵
ロータリーの友 1994年5月号表紙より

三條南ロータリークラブ週報

2010. 5.17
No.1953 No.36